

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500022		
法人名	有限会社グループ春の日		
事業所名	グループホーム 春の日		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町1-794-17		
自己評価作成日	平成23年 11月 18日	評価結果市町村受理日	平成24年 2月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・全職員、事業所理念である「ゆとり」の実践に向け、利用者本位のサービスが提供できるよう、日々努力しています。 ・平成23年より、事故対策委員会を事業所間で設置し、ヒヤリハット報告、事故検討会を定期的開催し、その内容を全職員間で共有しながら、安全で安心した生活が送れるような支援を行っています。 ・毎月、たくさんの行事活動を実施し、ご入居者様、職員共に楽しみながらの生活を送っていただいている。
--

※事業所の基本情報は、公・運営推進会議の中で、情報発信ができるよう、計画は立てているが、実施には至

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>入居者本位のサービスを提供するために「ゆとり」を理念に定め、実践に努めている。具体的には「見る、待つ、見極める」ことにより判断して、行動することを職員に徹底するようにしている。業務ミーティングにおいて「スピーチロックしない支援のあり方」について職員アンケートを基に研修を行う等、取り組み意欲が高い。また、ターミナルケアについては、入居の段階で事前指定書を交わし、重度化や終末期に関する意向をその時点で一度把握し、状況の変化に応じて、意向の確認を複数回行うことになっている。家族、医療機関の連携の下、すでに一度看取りを行っている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7
訪問調査日	平成23年 12月 19日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所理念である「ゆとり」を職員は常にゆとりとは？ということを日々意識しながら、職員全体で共有し、実践につなげている。	入居者本位のサービスを提供するために「ゆとり」を理念に定め、実践に努めている。入居者の主体性を尊重した日常生活を実現しようとしている。玄関に掲示するとともに、職員への徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の夏祭り、敬老会等の際は必ず声をかけていただくので、その際は積極的に参加させていただいている。又、施設行事の際には地域の方に声をかけさせていただき、民生委員、地域の子供達が参加してくださっている。	地域の行事である祭りや盆踊り、敬老会を始めとして、ボランティアや高校生の体験学習等、積極的に取り組んでいる。近くの公園への散歩は近隣住民との交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議の中で、情報発信ができるよう、計画は立てているが、実施には至っていない。地域の方々の個々の来訪によつての相談等には積極的に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議の中で、話し合われた内容、意見等は毎月行われている業務ミーティングで全職員へ報告し、サービス向上に向けた話し合いを行っている。	今年度は2回の開催である。参加メンバーの拡大と開催回数の増加を課題として取り組んでいる。	会議を通じて地域におけるホームの理解者を増やすことは、ホームの存在意義を高めることになるとともに、災害時の協力関係強化にもつながると思われるので、今後の取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・担当区域内的の社会援護課、介護保険課、障害福祉課とは毎月顔を合わす機会がある。何かあった際は相談にのって頂いている。	関係部署と協力関係を構築している。市主催の研修会に参加し、報告会により知識の共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設として身体拘束をしないという基本方針を全職員に理解していただいている。 ・千葉市主催の身体拘束、高齢者虐待の研修に定期的に参加させていただき、知識、理解の向上に努めている。	身体拘束しない介護を基本としている。業務ミーティングにおいて「スピーチロックしない支援のあり方」について職員アンケートを基に研修を行う等、取り組み意欲が高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・千葉市主催の研修に定期的に参加させていただき、施設内研修を行い、職員の理解に努めている。 ・職員はご家族との関係作りの重要性も理解し、良好な関係作りに努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な研修会に参加し、施設内での勉強会を実施している。 必要性に対しても、話し合いは行われており、必要であれば支援できる体制はできている。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> 何度でも十分な説明が出来るよう、努めている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> H22年より、介護相談員の受入れができるようになり、利用者側からの意見、要望等を表せる機会が作れるようになった。 年2回、ご家族宛てでのアンケートを実施し、要望等を記載していただける機会を設けている。 	<p>家族の来訪時は状況報告とともに意見や要望に耳を傾け、サービスに反映するよう心掛けている。市の介護相談員による入居者面談を実施しており、アドバイスを獲得している。</p>	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の業務ミーティング等で意見を聞き、改善できる所は早急に改善できるように努めている。 	<p>毎月1回の業務ミーティングにより、運営上の課題を取り上げ、検討している。施設長は随時職員との個別面談することに留意し、意見要望の把握に努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 職員の個性、チームワークを重要視し、経験者、新人職員共に創意工夫して、業務に取り組んでいただいている。 年に数回、職員全員を対象に食事会等を開いている。 介護処遇改善交付金を有効活用させていただき、手当等幅は少しは広くできている。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 研修年間計画の中で、技術研修、コミュニケーション技法など多々盛り込み、職員研修を実施している。 外部研修にも積極的に参加している。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 千葉市グループホーム連絡会等に参加させていただいていることで、交流の場は設けられている。 H23年9月に同業2事業所と見学会を含め、交換研修会を実施し、サービスの質の向上に努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご入居依頼からご入居していただくまでの間にも十分なご家族間での話し合い、施設見学もしていただき、ご本人が納得された上での入居となるよう心掛けています。 ・ご本人の希望、要望等も十分に聞き入れ、施設側での対応範囲を検討し、安心して受入れられるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・施設側からサービス導入前の面談等で、三者の関係性(ご利用者様、ご家族様、施設側)の重要性をご説明させていただき、ご家族の方も遠慮なく相談、悩み事を話せる関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居依頼があった際には、現在の生活状況、サービス内容、何故グループホームの利用を希望されたのか?ご本人は納得されているのか?身体状況にもより、本当にグループホームでよいのか?その他にその方に合ったサービスがあれば、ご紹介、相談には応じるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は常に逆の立場を考え、自分がされて嫌なことはしないということを認識し、職員も生活環境の一部なんだということをしっかり把握していただいた上で、尊重、尊厳を重要視した関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族にはご入居前にご本人、ご家族、施設側とのネットワークをしっかり作っていきましょう。ということをご説明しており、ご家族には極力面会に来ていただき、関わりを断ち切らないようにしている。 ・外泊、外出も自由とし、ご家族の宿泊も可能としている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族以外の面会も多々ある為、積極的に受け入れている。 ・ご家族の協力の元、馴染みの場所等への外出機会もある。 ・年賀状、お手紙の作成にも協力し、定期的に出されている方々もいる。	近くのスーパーへの買物等は職員同行で気軽に行けるように心がけている。職員が交代でレクリエーション委員を担当し、入居者の要望に沿った外出行事を企画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご入居者様を孤立させない様、極力リビングに集まっただき、体操、レク、洗濯、掃除等共同でいただくことで交流の場を自然にもてるようにしている。関わりが難しい方でも職員がパイプ役となり、関わりをもっていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去をされた後も、その後の生活に不安等を感じているご本人、ご家族様からのご相談も積極的に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・3ヶ月に1度、個別カンファレンスを行い、ご本人の意向を確認しながら実施している。確認が困難な場合はご家族にも事前に確認をし、把握するよう努めている。	介護記録には、本人の話したことをそのまま記載されている部分もあり、本人の意向をのがさないようにしている。個別カンファレンスを定期的開催し、日頃の生活の中から汲み取った本人の意向を皆で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居される前、入居されてからも常々情報収集に努め、馴染みの暮らしに近い生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個別記録で日々の生活状況がわかるようになっている。 ・月1度の業務ミーティングでも現状報告、現状確認をし、情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、ご家族の意見、要望等を伺った上で、カンファレンスを実施し、介護計画の骨格を作成してから作成している。作成後にはご本人、ご家族にも確認をさせていただき、同意も得ている。	本人、家族の意向を元に、業務会議で職員からの意見も汲み上げて介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1度定期的実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別記録には極力詳細を詳しく記入するようにしている。 ・ご家族への情報開示、職員間での共有もできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個々の要望、ご家族の要望等に関しても相談援助は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近隣の方々、スーパー等の店員さん達にもだぶグループホームの認知をしていただいております。親切丁寧に対応していただいております。 ・民生委員の方々も訪問して下さり、地域の行事(盆踊り、敬老会)等にお誘いいただいております。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関として、月2回の往診をしていただき、全体の健康管理をしていただいております。 ・他医療機関を受診した方がいい方などは、協力医療機関の先生より、紹介状等をいただき、受診をしています。	現在全員が協力医療機関を受診している。以前かかっていた医療機関からは入居の際情報提供書をお願い情報を共有している。訪問歯科を週1度来ている。また皮膚科、眼科なども必要に応じて受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・医療連携で協力していただいている訪問看護事業所間としては、定期的な健康管理、医療機関との連絡調整に努めていただき、24時間オンコール体制で入居者全員が適切な受診ができるような支援をしていただいております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時以降も、ご家族との連絡、相談等定期的に状態を確認させていただき、その際は主治医の先生とも情報交換をし、退院時のスムーズな受け入れができるようにしている。ソーシャルワーカーとの情報交換も密にしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に事前指定書として、書面の取り交わしをさせていただいております。施設として指針をしっかり説明し、ご理解をいただき、その内容を協力医療機関にも報告し、情報の共有を図っている。書面の取り交わしは何でもできるものとし、ご本人、ご家族の意向を尊重できるよう、医療機関、施設側も交えて何でも話し合いをするようにしている。	入居時の段階で事前指定書を交わし、重度化や終末期に関する意向をその時点で一度把握している。状況の変化に応じて、意向の確認を複数回行うことになっている。家族、医療機関の連携の下、すでに一度看取りを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員全員、上級救命救急の講習を受けており、知識、技術を身につけるよう支援している。定期的に急変時に備えた対応を職員全員で確認している。 ・職員も慌てずに対応ができるよう、フローチャートも作成している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回、消防署立会いの元、消防訓練を実施している。 ・運営推進会議の中で、近隣住民の方々への協力要請はできている。	年2回のうち夜間想定1回も含み火災訓練をしている。2階の倉庫には災害に備え水などの備蓄をしている。近隣への協力依頼やグループホームへの理解をポスティングの方法で行ったこともある。	実際の避難訓練が、職員と一部の入居者のみで行われている。入居者全員が安全に避難できるような訓練の実施が望まれる。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個々の入居者様には、人生の先輩という認識をもって関われるように意識している。 ・同姓介助を望まれる方々にも柔軟な対応をとらせていただいている。	職員は入居者に対して穏やかな対応をしていた。同性介助を希望する人についてはシフトを工夫し、できるだけ対応できるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・主体性をもった関わりの中で、わかりやすい説明、自己決定をしやすい関わり方を意識している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員は業務優先になることなく、「ゆとり」をもって柔軟な対応がとれるよう意識しながら対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご本人、ご家族の意向を取り入れ、ご本人の好みのものを使用させていただくようにしている。 ・ご希望があれば、月1回の訪問理美容サービスを活用していただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・週間献立表を各フロアに掲示し、皆様がいつでも見れるようになっている。 ・調理以外、準備、後片付けは職員と一緒にやっている。 ・昼食時は職員も一緒に食事をしている。 ・定期的に外食行事を行い、楽しみになるような支援を行っている。	早番の職員は一緒に食事を取るようになっている。準備、後片付けはできる範囲で入居者も協力をしている。食事は品数も多く、きれいに盛り付けられている。外食や出前などで、変化も取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個別に食事摂取量、水分摂取量等をチェックし、状態把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・入居者全員の方々に毎食後の口腔ケアの実施を促している。 ・週1回、訪問歯科の来訪もあり、口腔状態の把握もしていただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には日中、夜間共ご本人の意思を尊重し、トイレに行かれる方はトイレでの排泄を促している。 夜間、排泄での失敗に不安のある方などはポータブルトイレの使用をされている方もいる。 	必要に応じて排泄のパターンを把握し、できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 大半の入居者様は下剤の内服をされている為、医師等と相談しながら、排便コントロールができるようにしている。 水分摂取も積極的に促し、食物繊維類もしっかり摂るように支援している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 曜日、時間帯は基本的に決めず、個々の要望に沿って入浴日を決めている。 	原則週3回の入浴であるが、状況に応じて随時対応している。菖蒲湯や、ゆず湯など季節感を感じさせる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生活習慣(休息、睡眠パターン)を把握し、昼夜逆転等の生活リズムが変わらない様、支援している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者全員の服薬に関する内容を一覧にし、職員が見やすいようにしている。 職員による誤薬事故等がないようダブルチェックを実施している。 職員は異常の早期発見に努め、何かあった際には医療機関への連絡体制をしっかりとれるようにしている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入居者様には個々に役割をもって過ごしていただけるよう支援している。 行事レク等も豊富に計画し、楽しみや気分転換を図っていただけるようにしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> その日の希望に沿って、ご家族、施設側と協力しながら、外出できるようにしている。 	郵便局、買い物、公園など希望があればできるだけ対応している。寒い時期でも暖かい時間帯には外気浴をしている。温泉旅行の計画も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・数名の方々は自己管理されている。 ・施設管理させていただいている方々へは、必要時にご本人に渡したり、職員と買物等に同行して、お金を使用できる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・基本的に電話の使用は自由としている。 ・個別に携帯電話をお持ちの方々は個別に使用されている。 ・年賀状、手紙のやりとりもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各共用スペースも広々しており、トイレ、浴室に関しては使用後、必ず消毒を行い、次に使用される方も不快なく利用できるようにしています。 ・廊下も車椅子同士、余裕をもってすれちがうこともでき、歩行訓練としても活用している。	共有の空間は明るく、清潔である。ソファ、畳敷きのベンチなど、好きな場所で過ごせるようにしている。また、訪問当日は、時節柄、クリスマスの飾りつけがしてあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用スペースには、畳のスペース、ソファに座りながら、テレビが見れるスペース、長い廊下には畳イスを準備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室7.5畳のスペース、電気、エアコン、テレビ端子を標準装備とし、ご家族、ご入居者様同士も余裕をもって過ごせるスペースは確保している。 ・居室の物も基本的に馴染みの物を持参していただいて、居心地良く過ごせるよう、配慮させていただいている。	一人ひとり、好きな家具やテレビ、居室によっては小型冷蔵庫を持ちこんでいる人もおり、居心地よく過ごせる部屋になるよう、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・共用スペースには、手すり、バリアフリー、呼出し装置の設置もしており、自立した生活を送れるようにはなっている。 ・入居者様の中で、個々に必要と思われる方々は、福祉用具の活用もすすめ、安全面でも配慮させていただいている。		